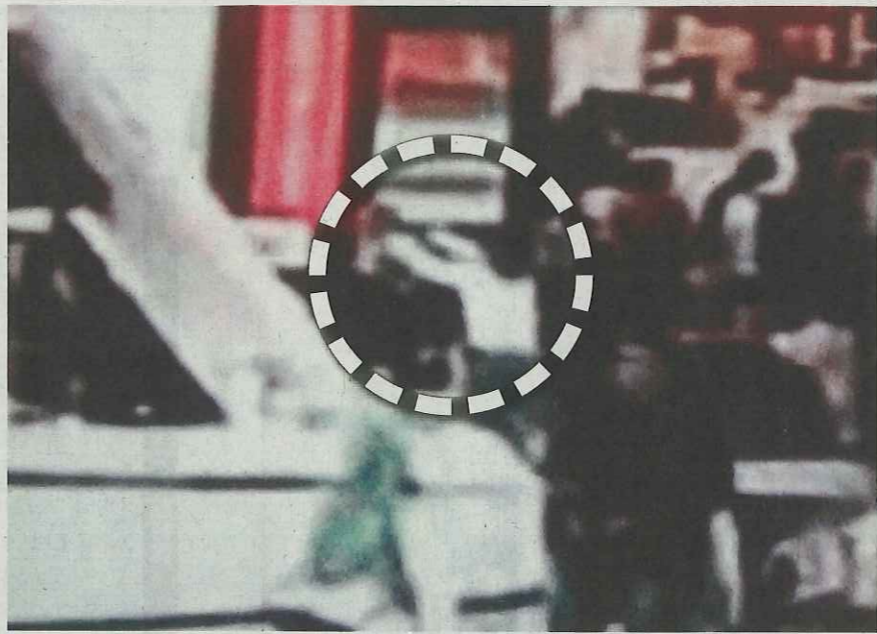


正男氏殺害 息子 マレーシア入りか 韓国で報道 病院で遺体確認情報

【ソウル＝井上宗典】北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の異母兄、金正男氏が殺害された事件で、正男氏の息子、金ハンソル氏が20日夜、遺体の身元を確認するため、マレーシアのクアラ Lumpur 国際空港に到着したとの情報が流れている。韓国の MBC テレビは21日、ハンソル氏が同日未明に、遺体が安置されているクアラ Lumpur の病院を訪れたと報じた。



襲撃瞬間か 監視カメラ映像

白い服の女 背後から手

マレーシアのクアラ Lumpur 国際空港で13日に発生した、金正男氏(45)殺害の瞬間を捉えたと思われる監視カメラの映像=日本テレビから。女2人の実行犯が液体の毒物を正男氏の顔につけたとみられている。映像では、白い服の女が、正男氏とみられる男性の背後から肩越しに両手を顔に伸ばしている

つて正男氏の遺体を確認した後、病院を後にしたと伝えられた。マレーシア警察は「親族の確認とDNA検査なしには遺体は引き渡さない」とした上で、引き渡し先は近親者に優先権があるとの立場を表明しており、ハンソル氏が引き取る可能性が高い。今後、遺体の引き渡しを求める北朝鮮側とマレーシア政府との対立が激化しそうだ。

「妹だまされた」

容疑者の兄訴え



容疑者 アロ (マレーシア警察提供)

【ナムティン(ベトナム北部)＝吉田健一】北朝鮮の金正男氏殺害事件で、実行犯の一人として逮捕されたベトナム人のドアン・ティ・フオン容疑者(28)の家族が20日、ナムティン省で本紙の取材に応じた。家族は写真などから「フオン(容疑者)に間違いない」とした上で、「優しい性格で誰かにだまされたに違いない」と訴えた。兄のドアン・バン・ビン

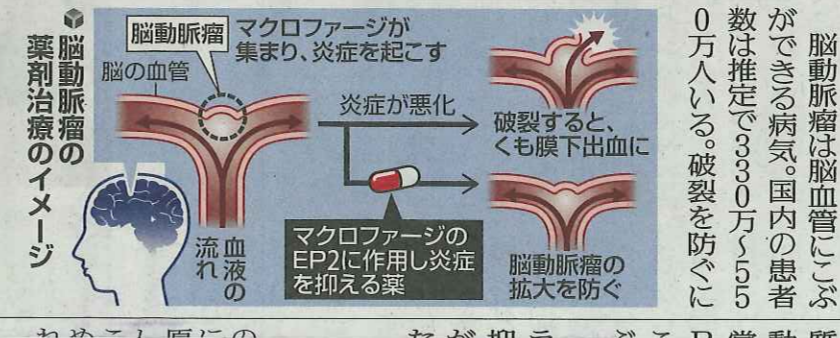
マレーシア地元紙スターは21日、ハンソル氏に似た黒いマスクの男性が空港に着いたと写真入りで報じたが、本人かどうかは確認されていない。地元紙ニュー・ストレーツ・タイムズ(電子版)によると、正男氏の遺体が安置されている病院に21日未明、マレーシア警察の特殊部隊の車両4台が入ったという。車両は同日午前中に撤収した。

△関連記事3面▽

脳動脈瘤 たん

京都大など特定治

破裂するとくも膜下出血につながる「脳動脈瘤」の原因となるたんぱく質の一つをマウスの実験で特定したと、京都大などの研究グループが発表した。脳動脈瘤の治療は現在は外科的な方法しかないが、治療薬の開発が期待できるとい



長崎大と民間会社共同開発

の供給を受けられなくなった。長崎県では07年、国営諫早湾干拓事業の調整池で発生し、水中の栄養を吸収する土をまくなどして対応した。毒素を持つプランクトンもあり、オーストラリ



茨城県内の湖で発生したアオコ(2016年6月) II エビスマリン提供

アオコは、水中のリンや窒素などが増える富栄養化により、植物プランクトンが増殖し、水面が緑色に覆われる現象。水温が上昇する夏場に発生しやすく、異臭を放つ。水道水を取水する際の濾過の妨げにもなる。農林水産省などによると、北米で2014年、取水管がアオコで詰まり、約40万人が水道水

AIロボでアオコ撃退



アオコを取り除く自律型ロボット(左)と、イルカの模型を手にする山本教授(左から4人目)、寺井社長(同5人目ら)(長崎市の長崎大で)

自律移動／自動検知で超音波照射

一般的。しかし、装置が大型のため浅瀬や入り組んだ場所では使いがたい。装置周辺の範囲しか取り除けない。今回開発したロボットは箱船型(全長約2.4m、幅約1.5m)で、AIやセンサーを内蔵。ソーラーパネルによる太陽光発電を動力源に、魚を模したひれの推進力で自由に動き回る。処理範囲は全地球測位システム(GPS)で設定。木の枝や石などの障害物を自動検知して衝突を避けながら進む。アオコを認識すると超音波を照射し、植物プランクトンの浮袋になっている気泡を破壊して光が届かない水底に沈め、増殖に必要な光合成をできなくする。タブレット端末などで操作もできる。現在、特許を出願している。今後、アオコが多発する夏場にダムや池などで実証実験を重ねて小型軽量化を図り、来年夏に500万円程度で販売する予定だ。

長崎大海洋未来イノベーション機構の山本郁夫教授(ロボット工学)は「さらにスムーズに水中を動けるよう、水の抵抗が小さいイルカ型などに改良したい」と構想を語り、同社の寺井良治社長は「世界の環境問題の解決に貢献したい」と話している。